話題　其の５３：“恥の文化”

　固いテーマですが、「日本人の所有する文化とか価値観」について、これまで見つめてきました。ネパール（ヒンズー教）、フィリピン（キリスト教）、ヨルダン（イスラム教）と９年目になる海外生活で、未だ確固とした「日本文化」を明確に表現できません。でも、最近の「犯罪や自殺多発国家日本」「英米のイラク侵攻とアラビア人」などを素材にその答えが見え隠れしているような、いわゆる視点を見つけた気がします。

　さて、これまでも「日本人のルーツ探し」の記事をこの紙面に書いてきたつもりです。
例えば、30 号には“日本の教育とチームワーク形成”、32 号のから 34 号に日本の“ものづくり”をテーマに書きました。今回は“恥の文化”という視点に挑戦します。

　私自身、他人から「生き恥をさらす」とか「恥知らず」という言葉を浴びせかけられる事をいつも恐れているのは確かです。小さいときから両親に「人様に迷惑をかけるな」と事あるごとに言い聞かされて育ちました。だから、モラルとか常識ある行動を心がけて生きてきました。（実行・・・？）

　日本人の多くは、特に私達の世代はテレビや映画の時代劇から得た価値観を所有していると思います。そこには侍の規律をモラルとして、挨拶や目上の人への尊敬などいわゆる“躾教育”がコンテンツとしてあります。特に、失敗に対する責任のとり方は「生き恥さらすより切腹する」という厳しいもので、それは、やくざ社会に於いても「小指を詰める」という掟と共通します。
そして、その責任のとり方は“潔い”という評価につながり“誇りを重要視する”価値観です。

　イスラム教もその聖典コーランに書かれている規律を厳守することが誇りであり、それを軽視する人々を“恥ずべき人”と捉えています。ここで私の価値観で**“恥と誇りの事例”**を挙げてみます。

　ａ）アメリカ主導によるイラク侵攻の恥：
　　　理由は何であれ、性急に武器と暴力によって結果を求めた

　ｂ）日本政府がアメリカによるイラクへの武力行使を支持した恥：
　　　日米安保や中東への石油依存など日本の安全や経済発展と大きく連鎖する背景がそこにあることを一人の国民として理解すべきですが、それらの損益を“国民や子ども達への教育”“未来への投資”として考えるのが誇りではないでしょうか。
　　これは職場で毎日接しているパレスチナ人達に語った私からの日本への希望でもありました。

　ｃ）ガンジーの非暴力運動（映画“マハトマガンジー”から）に学ぶ誇り：
　　　『・・幸福は労働と仕事に対する誇りから来る。インドは村が命だ。村から貧しさを追放するのが先決だ。貧乏は最悪の暴力です。建設的計画がインドを救う唯一の非暴力的解決だ。
　　暴力は西洋の持つ不幸だ。それを輸入するのは進歩ではない。』（第 16 号に関連記事あり）

　これらから学ぶことは、目的の正義性（誇り）で程度が異なりますが“**目的達成のために手段を選ばないことは恥じである**”そして“**誇りを守るには大きな犠牲が必要だ**”という事だと思います。

　本来、日本人には“恥の文化”が染み込んでいた筈ですが、高度経済成長期には便利さや豊かさを追求するあまり大気汚染等の公害を引き起こし、環境破壊を繰り返しました。
それは「金さえあれば何でも手に入る」という拝金主義的な価値観を醸成し、「利益の為には手段を選ばない」という恥ずべき社会をつくってしまいました。
例えば、フィリピンの少女売春と日本の援助交際は、同じように少女達が売春を手段としていますが、前者は「自ら選んだ手段では無く、強要された手段」であって、後者は「本人が幼稚に選択した手段」です。前者の場合は「家族を助ける為の犠牲」等の理由が想定されます。決して売春や買春を容認する意見ではないのですが、そこには、“家族の為の犠牲という誇り”と“欲求を満たす為の恥”の相反する捉え方（価値観）が出来るように思えます。『何をしたかではなく何のためにしたか？』です。

　イラクへの自衛隊派兵が身近に迫っているようですが、派兵せざるを得ないのであれば、その命令・指揮系統や自衛隊員の一動一挙手の活動に“恥と誇り”の分別を期待します。
もっと言えば、イラクの人たち（イスラム教徒）に羨望される“日本の恥を知る文化”を示して欲しいですね。その前にお前の行動はどうかって？　(^-^)ってごまかしましょう。

****

執筆及び編集：久米　篤憲